

テーマ	実施クラス	実施保育者名
サイエンス	5 歳児 みのり 組	抜井

● 実施スケジュール・活動内容

テーマの設定理由	
散歩に行く機会が多いため、日常にある自然物や天気や普段から触れている環境である。そこから天気の変化や虹など現象や特徴について探究することで、色の変化や光のふしぎを感じ、興味関心を深められるようにする。	
活動スケジュール・活動内容	
4月	戸外活動で訪れる公園で自然物を観察・探究する ①植物や昆虫、公園には何がある？…ポケット図鑑を持参し、見つけたものを観察した。写真を撮ったり、持ち帰れるものは持ち帰り、更に深めていった。 ②見つけたもの、好きなものを共有する…観察して終わりではなく、オリジナル図鑑や地図として作成し、共有・伝え合った。
5月	戸外活動に影響のある天気について探究する ①雲と雨…雲にいろんな形や種類があることを知り、雨の発生原理を知った。 ②雨と雪…実験を行い、空気中に水があることを知った。別の実験にて、雪の結晶を作る実験を行った。原理について知り、変化していく様子の観察を行った。 ③虹の色…虹は何色かを想像し、実験にて虹を発生させてみた。観察し、虹の塗り絵を行った。 ④影について…いろいろな形の影を作り、どうやったら思う形の影ができるか考え試してみた。できた影を観察した。
6月	先月探究した影について、深めていく ①光と影…影が発生する原理について知った。懐中電灯を用いて、光の反射や影が発生する仕組みについて知った。 ②光の実験…光が反射する原理で、鏡を使った光のリレー遊びを通して光の反射について探究した。 ③光の反射、屈折について更に深める…コップに入れたストローが光の反射で見え方が変わる実験を行い、なぜ見え方が変わるのか考えた。 ④光と影に色はできる？…カラーセロファンと懐中電灯を用いて、光の色変化を楽しんだ。スタンドグラスの作成を行い、できあがった影や色について観察した。

● 環境設定

活動のために準備した素材・道具、環境設定
子どもたちの興味を深められるよう、それぞれ図鑑や絵本、雲や虹の写真などを用意した。 戸外活動にて自然物を調べる際のポケット図鑑と、持ち運べるサコッシュを用意。 図鑑、地図作成用にクラフト用紙や絵の具、クレヨン、はさみ、セロテープ、製本テープなど。 実験に用いるコップ、水、フェルト、懐中電灯、鏡、ストロー、カラーセロファン、アルミホイル、ペットボトルなど。

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
・公園にどのようなものがあるか話し合うと、遊具や、活動で調べた植物などの名前が上がっていた。 ・2グループに分かれて探索に出かけると、どこに行きたいかを周りの子にきちんと伝え、「あっちにきのこがあるんだよ」などと知っていることを話して動く姿が見られた。 ・「先生これ撮って」と見つけたものを具体的に色などの特徴を話して伝えてくれ、自分の発見を喜んでいた。	【子どもの姿・声】 ・「フラワー公園なら色んなお花があるから見に行きたい。」と探索に行きたい理由も合わせて言えた。 ・「毒キノコがあるんだよ」 ・「あの辺にアリがたくさんいる」と知っていることを友達に話す姿が見られた。 ・「この下ならダンゴムシがいるかも」と植木鉢を動かしたり、「アリを捕まえたい」と虫にも積極的に触れていた。 ・「これって何に使うものなの？」と日時計を気にしていた。 【保育者との関わり】 ・「なんで植木鉢を動かそうと思ったの？」「どうやったらアリを捕まえられるかな」と問いかけを通して思考を促した。 ・カメラ使用前には「何を撮る？」と考えを整理できるように声を掛けた。 ・図鑑の調べ方が分からない子には、一緒にキーワードを探しながら調べる経験を共有した。 ・気になったことや気づいたことは全体で共有し、見つけた自信に繋がるようにした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
・普段から自分たちで自然のものに触れたり、図鑑を気に入っているため、今回の活動にも意欲的に取り組んでいる様子だった。公園内のあちこちをみんなで回るのが楽しかったようで、ワクワクした表情で公園内を探索していた。 ・木の実や葉っぱ、花にも興味を示し、「名前がわからないから知りたい」と調べることを楽しみに、探索することもできていた。	普段遊んでいる公園で草花や虫などの自然に目を向けることで、今後の遊び方に発展が見られると感じた。 特に配布された図鑑はお気に入り大切に使用する姿が見られていた。今後図鑑を使用したことによる新たな発展を期待している。



フラワー公園での探索活動

テーマ	実施クラス	実施保育者名
たべもの	5 歳児 みのり 組	抜井

● 実施スケジュール・活動内容

テーマの設定理由	
食べ物は子どもたちにとって日々の生活の中で非常に身近な存在であり、興味をもっている。普段の生活で接している水、また野菜について、またそもそもなぜ食べるのかを探究する。	
活動スケジュール・活動内容	
7月	<p>生きる上で欠かせない水について探究する</p> <p>①水とは何か？…色やにおい、形などの観察。水の流れや変化(水・氷・湯気)について学んだ。 ②水の役割？…園内外で水のある場所を探し、探索マップを作った。水の使われ方や役割を考える。 ③水はどこからくる？…雨や川など自然の水について学び、水が循環(雨→川→海→雲→雨)していることを知った。 ④水がもしなかったら？…水の必要性、ないとどうなるか？、大切に使うにはどうするか？考えた。</p>
8月	<p>野菜そのもの、またどうやって育ち、どこを食べているのかを探究する</p> <p>①野菜って何？…さまざまな野菜に触れて観察し、色・におい・感触・形など、種類による違い、特徴を知った。 ②どこにできるの？…野菜がどのように育つ(土の中・上)かを考えた。共通点、違いは何かを考えた。 ③食べているのはどこ？…根や茎、葉、花など部位があり、食べているところはどこか、他は食べられないのか探究した。 ④野菜カードを作る…調べたことや知ったことをオリジナルの野菜カードにまとめ共有しあった。</p>
9月	<p>食べ物がどうやって手に届き、食べた後どうなるのかを探究する</p> <p>①なぜ食べる？…体のつくり、働きを知る。食べたごはんがどうなるのか、気持ちや体の変化を考えた。 ②食べ物の働き…体を動かす、体をつくるなど、食べ物の働きを知った。給食と絡め、体の中でどう働くのかを考えた。 ③どうやって手元に届く？…食べ物がどうやってできるか、手にするまでの生産過程について知った。 ④旅マップの作成…食べ物がどうやって作られ、運ばれ、手に届き、そして体内でどう働くのかのマップを作成した。</p>

● 環境設定

活動のために準備した素材・道具、環境設定
<p>子どもたちの興味を深められるよう、それぞれ図鑑や絵本を用意した。 水の形について皿やコップ、袋などを用意。水の変化についてお湯や氷を用意した。 数種の野菜を用意し、細かく観察できるように虫眼鏡を用意。 食べ物がどこから来たのか、商品パッケージなど産地が分かるものを用意。またスーパーのチラシなど、どんなものがあり、どこから来たかを想像できるようにする。 野菜カードや旅マップ作成のためカードや模造紙を用意。</p>

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・水についての話を聞くと、身近に使っている手洗い場や、トイレなどの場所が多くなった。前回のすくわくで天気の実験をしていたこともあり、雨という言葉も出た。 ・水遊びの一環として、水着で行ったのでいつもと違った雰囲気的活動にワクワクした様子だった。 ・子ども達が牛乳パックを持って並び、タイまで水を運ぼうという遊びで水の流れを見ようと実験を行った。</p>	<p>【子どもの姿・声】 ・「色水はなんで色がつくの？」と気になっている様子だった。 ・どうやったらタイまでこぼさずに水を運べるかなと考えて、牛乳パックの位置や角度を気にしながら協力して取り組んでいた。 ・勢いよく水を流すと「早い！」と言いながら大興奮だった。</p> <p>【保育者との関わり】 ・ゲーム感覚で遊びながら水に触れることで、仲間意識も生まれ、協力して何かをすることに楽しみ、夢中になることが出来ていた。 ・子どもが疑問に思ったことに対して、「なんでそうなるんだろう？」と問いかけを重ねることで、さらに観察や考察が深まるように意識した。 ・船の玩具を用意したり、水の勢いを感じられるものを用意したことで、変化に気づきやすいように工夫した。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・水遊びを行う中で、水に興味を持って遊んでいる様子だったので、室内での実験という名の水遊びに大興奮だった。 ・水に触れながら、流れの勢いの違いや、色水実験なども行うことができ、更に興味を深める活動を行うことが出来た。 ・保育者が水を流すときに、ゆっくりは「ちよろちよろ」、勢いよく流すときには「ザー」という言葉を使うと、子ども達が手を洗う時などにも勢いを見て同じ言葉を言うようになっていた。</p>	<p>気温により、戸外での水遊びができない為、良い機会であった。実験という言葉にワクワクしている子ども達の姿を見てると、すくわく探求活動を楽しみながら参加している様子が伺える。</p>



テーマ	実施クラス	実施保育者名
アート	5 歳児 みのり 組	山田

● 実施スケジュール・活動内容

テーマの設定理由	
近年注目されているSTEAM教育の中でも、特に子どもたちが日常生活の中で触れる機会が少ないアートを題材とすることで、「感じる」「考える」「伝える」経験を積み重ね、自分の意見をもつことの楽しさや相手の考えを受け入れる心を育むことを狙いとする。	
活動スケジュール・活動内容	
10月	<p>日常にあふれる色について知り、感じ方を探究する</p> <p>①色とは…色の原料から何色になるかを考え、絵の具や素材を用いて再現してみた。作った色から受ける印象を話し合った。</p> <p>②色の三原色と組み合わせ…三原色について知り、色水を使って混色を行った。明るさや濃さの変化を試した。</p> <p>③色の世界…色眼鏡を作成し、色眼鏡を通すことで見え方・感じ方が変わることを体感した。</p> <p>④虹色を作る…5色から、7色を作ってみた。実際に作った色で虹を描いた。</p>
11月	<p>錯覚、見え方の違いを体感する</p> <p>①何が見える?…錯視絵を用いて、見え方の違いを楽しんだ。立体はしごを作り、見え方の違いを体感した。</p> <p>②目の錯覚…トリックアートを観察し、長さや大きさが違って見えるが実際には同じである不思議を体感した。</p> <p>③見る向きで変わる絵…左右で見え方が変わることを体感し、実際に仕掛けアートを作成してみた。</p> <p>④片目での見え方…両目と片目で見比べながら見え方の違いを体感した。</p>
12月	<p>名画について知り、技法を知る</p> <p>①名画を知る…風景画や人物画、抽象画など、見比べて色や雰囲気、感じ方の違いを体感した。</p> <p>②技法を知る…絵画で使われていた技法を知り、実際にコラージュ作品を作ってみた。</p> <p>③表現について知る…太い線や細い線、色の重ね方などを名画から学び、実際にやってみた。作品と取り組んだ技法を共有した。</p>

● 環境設定

活動のために準備した素材・道具、環境設定
<p>子どもたちの興味を深められるよう、それぞれ図鑑や絵本を用意した。</p> <p>色体感のため、色画用紙、色の原料写真、色見本、食紅(色水用)、カップ、スポイト、トイレトーパー芯、カラーセロファン、セロテープ、虹の見本絵、絵の具、パレット、筆など。</p> <p>錯視絵などの見本絵。長さや大きさ比べ用の素材(短冊など)。</p> <p>名画やイラストのカード。コラージュ用の素材(雑誌、英字新聞、パンフレット、写真、毛糸、モール、布の切れ端)、作成用の画用紙、ボンド、はさみ。</p>

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>色のイメージを聞くと、物の色で答える子どもが多く「赤は太陽だから熱い」「青は水だから冷たい」など物と関連付けて考えていた。色の原料を見せると驚いた様子で、友達同士でお喋りしていたので、意見を共有できるようにと時間を作った。</p> <p>1人1つ絵の具セットを配布し、自由に色を作ってみようと、声掛け新しい色探しを楽しめるようにした。</p> <p>絵の具の色の混ぜ方も伝えて個人対応をした。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> 色の原料を写真で知ると「え、虫?」「貝殻からできてるんだ」と驚いた様子だった。 絵の具セットを1人1つあることを喜び、自分なりの色を作って楽しんでいった。 新しい色ができると、友達や保育者に報告して喜んだ。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 色の原料を知って、友達と共有したいという様子だったので、意見を話す時間を作った。 1人1つ絵の具を用意したことで、喜びながら活動に取り組めた。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> 絵の具を使った活動が好きな子達なので、原料を知った時には驚いていたが、「色が何からできているか考えたことがなかった」と新たな気づきになった。 子ども達の好きな活動で、色で遊びたかったので絵の具セットは大喜びして良かった。 新しい色ができたら保育者や友達と共有するように活動を計画すると、嬉しそうに伝え合う姿が見られ、より意欲が増していた。 新しくできた色は保育者が1つの紙にまとめ、自分のオリジナルの色として名前を考え、掲示することで自分で考えた喜びを共有することができた。 	<p>色の原料について知ることによって、今後絵の具を使用する際に何を_usingしているのか、何かで代用できるのか等の発想から発展が期待できる。</p>



テーマ	実施クラス	実施保育者名
おかね	5 歳児 みのり 組	山田

● 実施スケジュール・活動内容

テーマの設定理由	
「お金の価値」や「選択と判断」、「貯める・使う・分け合う」といった金融の基本的な概念を、遊びや実生活を通して体験的に探究することで、お金の仕組みや社会との繋がりへの理解を深める基盤を育むため。	
活動スケジュール・活動内容	
1月	<p>お金とは何か、また必要性や役割について知る</p> <p>①お金とはなにか…どんな場面を使っているかを考えた。物々交換から発生する不自由さからお金の必要性、役割を体感した。</p> <p>②お金ってどんな形…模擬貨幣を用いて色や形、重さ、数字の大小などを観察した。その上でオリジナル貨幣を考え、作ってみた。</p> <p>③お金の価値…模擬貨幣を用いてお店屋さんごっこを行い、買ったもの・買えなかったもの、なにを優先したのか、物の価値などについて考えた。</p> <p>④必要なものと欲しいもの…カレーを作るために、限られたお金で何をかうべきか？また、必要なもの・欲しいけど買わないものなどグループに分かれ考えた。</p>
2月	<p>お金の使い方を考え、体感する</p> <p>①お仕事とお金…先月の活動より、買えなかったものを買うには・お金を得るには、という視点でお仕事をして模擬通貨を得る体験をした。</p> <p>②貯めるって？…得たお金を使うか、貯めるかを考えた。貯めておく財布を作った。</p> <p>③値段…同じような商品でも値段が違うことがあることを学び、値段の違いにある背景や、選択する理由などを考えた。</p> <p>④お仕事を考える…グループに分かれ、やってみたいお仕事を考え、必要なものを検討した。</p>
3月	<p>お仕事とその対価について考える</p> <p>①価格を考える…先月の活動より、考えたお仕事の価格について買いやすい価格・適正な価格について検討した。</p> <p>②お仕事の準備…考えたお仕事について、商品やお店の準備、提供サービスの案内など必要なものを準備した。</p> <p>③お仕事を通じ売買体験…前回準備した商品やサービスをもとにお店さんを展開し、お仕事をする・対価を得るを体感した。</p> <p>④お金を分け合うことの体感…公園を例に、みんなでお金を分け合うことを学び、何があつたら嬉しいか、みんなのお金の使い道を考えた。</p>

● 環境設定

活動のために準備した素材・道具、環境設定
<p>模擬商品(複数)、模擬貨幣を用意した。</p> <p>オリジナル貨幣作成のため、画用紙、クレヨンや色鉛筆などを用意した。お店屋さんごっこ用に買い物かご、値札、商品カード、模擬レジ。</p> <p>お財布作成用の折り紙、マーカー。</p> <p>お仕事計画用の模造紙、筆記用具。</p> <p>公共施設イメージのため、見本写真。</p>

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・実際に買い物する時の支払い方法を改めて確認した後、模擬紙幣を配り、実際のお金の細かな絵柄や、模様なども答えられる子がおり、「今日帰ったら見よう」と積極的な声が上がっていた。</p> <p>・観察後に自分達でオリジナルの紙幣を作ることを伝えると、「お金だからいくら数字を書かないと」「真ん中に丸がある」「人の顔がある」など気づいたことを発表し合った上で、自分の紙幣には何をかくかを決めていた。</p> <p>・完成するところだった所を友達と伝え合う姿が見られ、発表も自信をもってできた。</p> <p>・次回自分たちの紙幣を使って遊ぶことを伝えると、楽しみにする様子が見られた。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <p>・模擬紙幣を見て「本物は斜めにすると顔が浮かぶんだよ」「この偽物も本物と同じ人の顔が書いてあるね」「小さいけど本物みたい」とよく見て興奮した様子だった。</p> <p>・友達と積極的に見つけたことを伝え合い、一緒に活動を楽しんでいた。</p> <p>・お金をいっぱい集めて持った子が「お金持ちになった」と嬉しそうに話す姿が見られた。</p> <p>・「0をたくさん書けば大きいお金になるから」とオリジナルの紙幣にたくさん書き入れる子もいた。</p> <p>【保育者との関わり】</p> <p>・模擬貨幣の観察時に細かい部分まで観察できるように声掛けを工夫した。気づいたことは友達にも共有するように伝え、みんなで観察できるようにした。</p> <p>・オリジナルの紙幣は好きなものを作れるように、あえて決まりは決めず、「お金を作るなら何が書いてあった方がいいかな」と問いかけ、値段の設定を出来るようにした。</p> <p>・自分の作った紙幣のこだわりを伝えられるよう、保育者も積極的に質問し、子ども達が発言しやすいようにした。</p>

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・お金を観察することで、今まで当たり前に使っていたものを改めて見つめ直すことができた。子ども達も「帰ったら教えてあげよう」「見せてもらってくる」と意欲的で、模擬紙幣の観察を通してお金への興味が増していた。</p> <p>・「買い物ごっこまたやりたい」と自分達で作ったものも使って遊びたがっているため、お店屋さんの商品も今後工夫しながらクラスで楽しめたらと考えている。</p> <p>・自分で考えて作ったオリジナルの紙幣も気に入っているようなので、模擬紙幣と合わせて一緒に遊ぼうと期待を持った声掛けを行った。</p>	<p>買い物ごっこを通して楽しみながらお金について学ぶことができている。お金の使い方だけでなく、何を売ったら売れるのかまで考えて製作する姿が見られて子ども達主体の発展が感じられた。</p>

